

## English follows Japanese

### 創世記 27:41-28:9 二人の花嫁の物語

先週はヤコブとエサウ兄弟について更に読み進めました。この二人の兄弟の物語を読み進めると、その物語が痛みと罪と不誠実についての物語であることが見えてきました。今日はこの物語の続きで、二人が妻探しに出かけるところを見ていきます。今日の二人の花嫁の話では、二人の男が自分の人生を思い通りに正すためには何でもする様子を見ます。このことは私たちが人間関係をどう修復しようかと模索するときの良い戒めとなります。お祈りしてから今日の聖書箇所を見ていきましょう。

それでは創世記 27 章の 41 節から読んでいきましょう。「エサウは、父がヤコブを祝福した祝福のことで、ヤコブを恨んだ。それでエサウは心の中で言った。「父の喪の日も近づいている。そのとき、弟ヤコブを殺してやろう。」42. 上の息子エサウの言ったことがリベカに伝えられると、彼女は人を送り、下の息子ヤコブを呼び寄せて言った。「兄さんのエサウが、あなたを殺して鬱憤を晴らそうとしています。43. さあ今、子よ、私の言うことをよく聞きなさい。すぐに立って、ハラシへ、私の兄ラバンのところへ逃げなさい。44. 兄さんの憤りが収まるまで、おじラバンのところにしばらくとどまっていなさい。45. 兄さんの怒りが収まって、あなたが兄さんにしたことを兄さんが忘れたとき、私は人を送って、あなたをそこから呼び戻しましょう。あなたたち二人を一日のうちに失うことなど、どうして私にできるでしょう。」リベカはイサクに言った。「私はヒッタイト人の娘たちのことで、生きているのがいやになりました。もしヤコブが、この地の娘たちのうちで、このようなヒッタイト人の娘たちのうちから妻を迎えるとしたら、私は何のために生きることになるのでしょうか。」1. イサクはヤコブを呼び寄せ、彼を祝福し、そして彼に命じた。「カナンの娘たちの中から妻を迎えてはならない。2. さあ立って、パダン・アラムの、おまえの母の父ベトエルの家に行き、そこで母の兄ラバンの娘たちの中から妻を迎えなさい。3. 全能の神がおまえを祝福し、多くの子を与え、おまえを増やしてくださるよう。そして、おまえが多くの民の群れとなるように。4. 神はアブラハムの祝福をおまえに、すなわち、おまえと、おまえとともにいるおまえの子孫に与え、神がアブラハムに下さった地、おまえが今寄留しているこの地を継がせてくださるよう。」5. こうしてイサクはヤコブを送り出した。彼はパダン・アラムの、ラバンのところに行った。ヤコブとエサウの母リベカの兄、アラム人ベトエルの子ラバンのところである。6. エサウは、イサクがヤコブを祝福したこと、またパダン・アラムから妻を迎えるために彼を送り出したことを知った。イサクが、ヤコブを祝福して送り出したときに、カナンの娘たちから妻を迎えてはならないと命じ、7. ヤコブが、父と母の言うことに聞き従って、パダン・アラムへ行ったことも。8. さらにエサウは、カナンの娘たちを、父イサクが気に入っていないことを知った。9. それでエサウはイシュマエルのところに行き、今いる妻たちのほかに、アブラハムの子イシュマエルの娘で、ネバヨテの妹マハラテを妻として迎えた。」

最初にお話ししたように、これは二人の花嫁の物語です。あるいは二つの花嫁探しの物語とも言えます。ヤコブは罪の結果から逃れるために花嫁を探しに向かう一方、エサウは両親に受け入れてもらうために新たな妻を探します。どちらの話もこの双子の兄弟が人生の目的を探し求めて失敗してしまう、機能不全な姿を描き続けています。そうした失敗は間違ったところに答えを探し、間違った問題にフォーカスしてしまうことから起こります。2人とも、それぞれが人生に求めているものに対する答えは、神のみが与えることができるのだということを学ぶ必要がありました。ヤコブにとって最も重要な事は、父や祖父が得た祝福を自分もつかみ取るのだということでした。エサウは自分が大切に思う人たちに受け入れてもらえることを求めました。エサウの人生がどうなっていったのか、私たちにはあまり知らされていませんが、ヤコブについては詩篇の著者が詩篇 57:1-3 に記した真実を彼が理解するために、神がヤコブを更に大変な状況を経験させなくてはならなかったことを知っています。「私をあわれんでください。神よ。私をあわれんでください。私のたましいはあなたに身を避けていますから。私は滅びが過ぎ去るまで御翼の陰に身を避けます。2. 私はいと高き方神を呼び求めます。私のためにすべてを成し遂げてくださる

神を。3. 神は天から助けを送って私を救い私を踏みつける者どもを辱められます。セラ 神は恵みとまことを送ってくださいます。」

では、この「花嫁たち」を見ていきましょう。そしてこの兄弟が花嫁探しにおいて、どのように神が与えようとされる避け所と目的から遠ざかって行ったのか見ていきます。最初にヤコブが花嫁探しに送り出されたのは、ヤコブが罪の結果から逃れるためでした。そもそもエサウに与えるつもりだった祝福を、ヤコブが父親を騙し奪ったことを、エサウが快く思っていなかったであろうことは容易に想像できるのではないのでしょうか。事実、エサウは「父の喪の日も近づいている。そのとき、弟ヤコブを殺してやろう。」と言って怒り、ヤコブを殺すことを誓っています。ヤコブとエサウの母であるリベカは、自分のお気に入りの息子を殺そうとしている兄の計画を解決しようと、再び介入します。息子たちが生まれた頃は彼女の信仰を見るのが出来ましたが、その後は自分の欲しいものを手に入れるためには、不正も辞さない彼女を姿が見られます。もちろん、彼女自身の心は息子ヤコブを愛するゆえにこうした不誠実な行為に及んでいるに過ぎません。けれど、ヤコブへの愛ゆえに、彼女は息子エサウを遠ざけてしまいました。そのことについては後ほど触れたいと思います。さて、リベカはヤコブが土地の女性と結婚するのではないかと心配しているとイサクに信じさせようと計画しました。既に見たようにエサウの妻選びに関して彼らは喜ばしく思っていなかったため、その気持ちは本当であったかも知れません。けれど、彼女の理由は単にヤコブを兄ラバンの家に滞在させるための言い訳に聞こえます。そこにいればエサウの復讐から逃れられるからです。年老いて若い頃ほど頭の回転も良くなっていた夫に対する、彼女の巧みな働きかけによって、もちろんイサクは彼女の考えに同意し、ヤコブを祝福して送り出しました。この祝福はアブラハムの祝福がヤコブに引き継がれたことを思い起こさせます。おそらくイサクは神が次男のヤコブを選ばれたことを完全に受け入れ、彼に対する祝福の中に認識していたのでしょう。彼はハランとも呼ばれていたパダン・アラムにいる叔父、ラバンの所へ行きました。スクリーンにはこの旅がどれほどの長さであったかが示されています。ラバンでヤコブは自分と同じく不誠実で策略に長けた男と出会い、その男との関係を通して、神はついにヤコブがご自身の目的とご計画に完全に委ねる者へと変えられます。ただ、今はここで出会う二人目の花嫁に目を向けてみましょう。

エサウもまた別の嫁をめとります。この花嫁は親たちに認められるために迎え入れた人でした。9節には「それでエサウはイシュマエルのところに行き、今いる妻たちのほかに、アブラハムの子イシュマエルの娘で、ネバヨテの妹マハラテを妻として迎えた。」とあります。この女性は叔父イシュマエルの娘でいともでもありました。私たちはエサウについて多くを知り得ませんが、彼が両親に認められたいと真に思っていたことは明らかでしょう。母親は明らかにヤコブをえこひいきして、兄のエサウよりもヤコブを優先するためには嘘をつくことも辞さないほどです。また、父親はヤコブよりもエサウの性格を気に入っていて、彼との関係は良好でしたが、その結婚については不満を抱いていました。創世記 26:34-35 を思い出してください。「エサウは四十歳になって、ヒッタイト人ベエリの娘ユディトと、ヒッタイト人エロンの娘バセマテを妻に迎えた。35. 彼女たちは、イサクとリベカにとって悩みの種となった。」エサウは既に二人の女性と結婚していましたが、どちらの妻も家族間の緊張の原因となっていたようです。イサクは一人の男と一人の女が一生添い遂げる、神の理想でもある一夫一婦制を貫きました。アブラハムは、そうではなかったと言わざるを得ません。ですが、アブラハムがしたことは結婚の重要性和、その結婚を冒涇するときどのような問題が起こるかを示しました。事実、アブラハムの物語で最も多くが語られているのは、彼がイサクのために妻を探すために僕を遣わせた話です。彼はイサクにとって信仰と価値観を共有する妻が必要であることを明らかに認識しており、それは地元的女性の中から妻を娶らないということの意味していました。エサウは結婚をそれほど重要視していませんでした。彼の考えは、容易に出会える女性の中から妻を娶り、その人が自分の思い通りに満足させてくれなければ、また別の女性を娶ればよいというものでした。親から認めてもらいたいという願いが叶わなかったため、何とか両親に認められようと、更に別の妻を娶るという行動に出たわけです。以前にも指摘したように、聖書は神の民の一夫多妻制を全面的に非難し

ていません。けれど、明らかに理想とするのは一夫一婦制で、特に神の民を導く者にとって一夫多妻であることを許してはいません。旧約聖書において律法は司祭が複数の妻を持つことはできないとしており、新約聖書でも牧師や執事には同じ基準が設けられています。もちろん、現代の西洋やアジア社会のほとんどで一夫多妻制は通常違法とされていて、認められません。ですが、私たちは結婚を使い捨てできるもののように扱うことでこの問題を解決しました。簡単に離婚し、不倫は見過ごされ、受けるべき非難を受けることがなく、ポルノも簡単に手に入ります。日本ではどうでしょう。たくさんのメイドカフェなどのビジネスが存在し、結婚の誓いを結ぶよりもお金を払って、もしかしたら配偶者以上に自分を大切にしてくれる人がいるかのような感覚を味わうことができます。私たちが住む世界の多くで、結婚はアブラハムやイサクが大切にしようとしてではなく、エサウがしたような扱いになっているのは明らかです。

ですがどちらの花嫁にも、ヤコブとエサウは共に同じことを見出すことになります。結婚は人生における人間関係の問題を修復することはできず、求めていた充実感や目的も与えてくれません。まだ結婚されておらず、神に配偶者を真剣に祈られている方には、この物語はあなたが求めておられる関係について真実を語ってくれています。結婚は繰り返されてきた罪の解決はできませんし、壊れた人間関係を修復することも、今ある人間関係に欠けているものを埋めることもできません。誤解しないでください。私は結婚を否定しているわけではありません。伝道者の書 4:9-10に「二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。10. どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。」とあるのは真実です。けれど、結婚を他の全ての人間関係を修復するための解決策と見なしたり、罪の誘惑から逃れるための策と見なしたり、結婚が意図していないものと捉えてはなりません。罪に対する唯一の答え、そして人間関係を修復する唯一の答えは、創造主である神との永遠に続く関係を回復することのみしかありません。神との関係の回復は、この世のどんな関係にも見出すことはできません。どんなに最高で完璧な結婚でも、人生で最高の充足感をもたらすことはありません。そのような充足感を与えることができるのは、イエス・キリストだけです。

ペテロへの手紙 第二 1:2-3には「神と、私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。3. 私たちをご自身の栄光と栄誉によって召してくださった神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。」とあります。平安と充足感は、御子なる神イエス・キリストを通して神と関係を持つときのみ与えられます。私たちを導き、そして敬虔さに見られる神の目的、その正しい目的のために生きるのに必要な全てを与えてくださる神の力を経験するためには、キリストについて何を知らなくてはならないのでしょうか。イエス・キリストが私たちの代わりに十字架にかかって下さり、神の怒りをその身に受けて私たちの罪の代償を払ってくださったことを知らなくてはなりません。そのことを理解し、信仰によってイエス・キリストを自分の主であり救い主として受け入れるとき、私たちが第二ペテロ 1:2-3が語っているような者となるのです。そうやってこそ、詩篇 57:1-3で示した真理を知ることができるのです。詩篇 57:1-3「私をあわれんでください。神よ。私をあわれんでください。私のたましいはあなたに身を避けていますから。私は滅びが過ぎ去るまで御翼の陰に身を避けます。2. 私はいと高き方神を呼び求めます。私のためにすべてを成し遂げてくださる神を。3. 神は天から助けを送って私を救い私を踏みつける者どもを辱められます。セラ 神は恵みとまことを送ってくださいませ。」この二人の男たちは妻に逃げ場を求めることで、神にではなく結婚の関係に逃げました。そのような関係は、神への服従に示される信仰に基づいた神との関係のみが満たしを与えるのだという真理を最終的に理解するまで、彼らの失望を与え続けます。もし皆さんが人生の他の所に目的や充足感を追い求めているなら、彼らが自分たちの選択の末味わたったのと同じ失望感を覚えるでしょう。子なる神であるイエス・キリストへの信仰だけが、神への唯一の道なのです。

ですから私たちは教会に与えられた2つの礼典のうちの一つである、聖餐式（主の晩餐）を祝い続けるのです。私たちの代わりに砕かれたイエスの体と、流されたイエスの血を覚え、聖餐式に与るとき、私たちはイエスが私たちの身代わりとなって苦しまれたことを、とても現実的で具体的に思い起こさせられます。「罪を知らない方が、私たちの代わりに罪とされました。」イエス・キリストをご自分の主であり、救い主として知っておられ、バプテスマを受けられた方は、共に主の晩餐に与ってください。まだその準備ができていないお子さんがおられるなら、親として子どもに主の晩餐の意義を教える最善の道は、お子さんを主の晩餐に与らせないことです。私が祈った後、執事が礼拝堂の四隅でパンとジュースをお配り致します。全員が受け取った後に、共に晩餐に与りたいと思います。祈りましょう。



## Genesis 27:41-28:9 A tale of two brides

Last week, we read more about these two brothers, Jacob and Esau. We saw that as this Tale of Two Brothers continues to unfold that is really a story of pain, sin, and dishonesty. Today in the next part of their story, they both go on a hunt for a wives. And in this Tale of Two Brides, we continue to see two men grasping at anything to fix their lives in their own way. It is a warning to all of us as we look for ways to fix the relationships in our lives. Let's pray and then get into our passage for today.

Let's begin reading Genesis 27, starting at verse 41. <sup>41</sup> Now Esau hated Jacob because of the blessing with which his father had blessed him, and Esau said to himself, "The days of mourning for my father are approaching; then I will kill my brother Jacob." <sup>42</sup> But the words of Esau her older son were told to Rebekah. So she sent and called Jacob her younger son and said to him, "Behold, your brother Esau comforts himself about you by planning to kill you. <sup>43</sup> Now therefore, my son, obey my voice. Arise, flee to Laban my brother in Haran <sup>44</sup> and stay with him a while, until your brother's fury turns away— <sup>45</sup> until your brother's anger turns away from you, and he forgets what you have done to him. Then I will send and bring you from there. Why should I be bereft of you both in one day?"

<sup>46</sup> Then Rebekah said to Isaac, "I loathe my life because of the Hittite women.<sup>[d]</sup> If Jacob marries one of the Hittite women like these, one of the women of the land, what good will my life be to me?" **28** Then Isaac called Jacob and blessed him and directed him, "You must not take a wife from the Canaanite women. <sup>2</sup> Arise, go to Paddan-aram to the house of Bethuel your mother's father, and take as your wife from there one of the daughters of Laban your mother's brother. <sup>3</sup> God Almighty<sup>[a]</sup> bless you and make you fruitful and multiply you, that you may become a company of peoples. <sup>4</sup> May he give the blessing of Abraham to you and to your offspring with you, that you may take possession of the land of your sojournings that God gave to Abraham!" <sup>5</sup> Thus Isaac sent Jacob away. And he went to Paddan-aram, to Laban, the son of Bethuel the Aramean, the brother of Rebekah, Jacob's and Esau's mother.

<sup>6</sup> Now Esau saw that Isaac had blessed Jacob and sent him away to Paddan-aram to take a wife from there, and that as he blessed him he directed him, "You must not take a wife from the Canaanite women," <sup>7</sup> and that Jacob had obeyed his father and his mother and gone to Paddan-aram. <sup>8</sup> So when Esau saw that the Canaanite women did not please Isaac his father, <sup>9</sup> Esau went to Ishmael and took as his wife, besides the wives he had, Mahalath the daughter of Ishmael, Abraham's son, the sister of Nebaioth.

As I introduced this passage with, this is the story of two brides or the search for two brides. **In Jacob's case, there is a search for a bride to escape the consequences of sin and for Esau, he finds another wife to gain his parents acceptance.** Both of these continue to pain a picture of disfunction and a set of twins both seeking for purpose in their life and failing. This failure comes because they continue to look in the wrong place or focus on the wrong problem. They both needed to learn that only God could provide them with any real solution to what each of them were looking for in their life. For Jacob, his primary passion is grasping at the blessing he saw in his father and grandfather. For Esau, he is seeking acceptance by those he cares about. While we don't know much about what happens with Esau's life, we know that God will need to take Jacob through a lot more bad circumstances in order to finally bring him to the point where he really understands what the Psalmist understood in [Psalm 57:1-3](#). [Be merciful to me, O God,](#)

be merciful to me, for in you my soul takes refuge; in the shadow of your wings I will take refuge, till the storms of destruction pass by. I cry out to God Most High, to God who fulfills his purpose for me. He will send from heaven and save me; he will put to shame him who tramples on me. Selah God will send out his steadfast love and his faithfulness!

Let's take a look at each of these "brides" and how the search for them shows these brothers further run from the refuge and purpose that God would willingly provide for them. **The first bride that Jacob is sent away to find is so that Jacob can escape the consequences of sin.** As you might imagine, after Jacob dishonestly tricked his father into giving him the blessing he intended to give Esau, Esau was not too happy about it. In fact, he was angry and swore that he would kill Jacob after his father died when he said, **The days of mourning for my father are approaching; then I will kill my brother Jacob.** Once again Rebekah, Jacob and Esau's mother, intervenes on behalf of her favorite son with a plan to fix this problem of a brother who wants to kill him. I know at the beginning of her son's lives we saw her faith, but since that point, we have definitely seen a picture of a woman who resorts to dishonesty on a regular basis to get what she wants. Of course, in her mind, she only uses this dishonesty out of love for her son, Jacob. But, in her love for Jacob, she has pushed away her son Esau. We will come back to that.

So her plan is to make Isaac believe that she is concerned about Jacob marrying a local woman. This could be legitimate, since as we have seen, Esau's choice of wives has not made them happy. But, it seems like her excuse is just that, an excuse to find a reason why Jacob should go stay at her brother Laban's house. There he would be safe from Esau's vengeance. Of course this manipulative behavior on her part towards her husband who was clearly very old and perhaps not mentally as sharp as he was in his younger days, caused him to approve the idea and send Jacob away with his blessing. This blessing invokes the blessing of Abraham being passed on to Jacob. Perhaps Isaac has fully accepted that God has chosen his younger son Jacob and is recognizing this in his blessing. He goes away to his stay with his uncle Laban in Padan-Aram also known as Haran. On the screen you can see the length of this journey. In Laban, Jacob will meet a man who is as dishonest and scheming as he is, and through those interactions God will finally fully get Jacob to surrender to his purpose and plan. But for now, let's turn to the second bride we see here.

Esau also takes another wife. And this is a bride to win favor with parents. Verses 8-9 say, **Esau went to Ishmael and took as his wife, besides the wives he had, Mahalath the daughter of Ishmael, Abraham's son, the sister of Nebaioth.** He also marries a cousin, one of his uncle Ishmael's daughters. Even though we don't know much about Esau, it seems pretty clear he desperately want acceptance from his parents. His mother clearly prefers Jacob even to the point of lying to push him ahead of his brother Esau. And while his father connects better to him and prefers his personality to Jacob's, he disapproves of his marriages. In fact remember what we have already read in [Genesis 26:34-35](#). **When Esau was forty years old, he took Judith the daughter of Beeri the Hittite to be his wife, and Basemath the daughter of Elon the Hittite, 35 and they made life bitter for Isaac and Rebekah.** Esau was already married to two women, and it seems both of them were a source of strain in the family relationships. Isaac had demonstrated God's ideal of monogamy – one man, one woman in a lifetime marriage. Abraham, I

would have to say did not. But what Abraham did do was demonstrate the importance of marriage, and the problems that happen when you violate that marriage. In fact, the longest recorded story of Abraham's life is the story of him sending his servant to find a wife for Isaac. He clearly understood the need for Isaac to have a wife who shared his faith and values, which meant not taking a wife from the local women.

Esau did not put such a high value in a marriage. His attitude was to take a wife from among the easily available women, and when that one woman didn't satisfy him according to his liking, let's just take another one. Then because he still didn't find the approval in a relationship he needed, his attitude was take still another wife to seek his parents approval. Now, as I have pointed out before, the Bible does not outrightly condemn polygamy for God's people, but it absolutely shows the clear ideal is monogamy, and for anyone who is going to lead God's people spiritually, polygamy is not allowed. There are Old Testament laws showing that priests could not have more than one wife and the New Testament sets that same standard for Pastors and Deacons. Of course, in most of our modern western and Asian societies, polygamy is generally illegal and frowned upon. But we have cleaned it up by treating marriage as a disposable commodity. Easy divorce, adultery that is just winked at, and doesn't carry the condemnation it should, easy access to pornography. How about here in Japan where there there is no shortage of maid café's or other types of businesses where instead of seeking a committed marriage, you can pay money to try feel like there is someone who appreciates you, maybe more than your spouse. It is clear that in much of the world we live in, marriage is treated more like Esau treated it than like Abraham and Isaac treated it.

But in both of these brides, both Jacob and Esau would discover the same thing. The marriage would not fix the relationships in their lives that were a mess and would not give them the fulfillment and purpose they were looking for. For those of you who are unmarried and are desperately praying for God to bring you a spouse, let this story speak truth about the relationship you are seeking. It will not fix patterns of sin, and it will not fix broken relationships or give you a relationship to fulfill whatever is missing in current relationships. Now, don't get me wrong, I'm not discouraging marriage.

[Ecclesiastes 4:9-10](#) is true when it says, [9 Two are better than one, because they have a good reward for their toil. 10 For if they fall, one will lift up his fellow. But woe to him who is alone when he falls and has not another to lift him up!](#) But don't look to marriage as the relationship to fix all other relationships, or to take away temptation to sin or anything else that marriage was never intended to do. **The only answer for sin and the only answer to fixing relationships is to restore the only eternally lasting relationship with your Creator, God.** Fixing that relationship with God cannot be found in any relationship here on earth. Even the best and most perfect marriage will not bring ultimate fulfillment to your life. The only person you can look to for that kind of fulfillment is Jesus Christ.

[2 Peter 1:2-3](#) says, [May grace and peace be multiplied to you in the knowledge of God and of Jesus our Lord. 3 His divine power has granted to us all things that pertain to life and godliness, through the knowledge of him who called us to his own glory and excellence...](#) Peace and fulfillment will only come when we have a relationship with God through God the Son, Jesus Christ. What knowledge of Christ do we need to have to experience God's power directing our lives and giving us everything we need to truly live

for the right purpose – God’s purpose as seen in our Godliness? We need to know that Jesus Christ died on the cross in our place and took the wrath of God on himself to pay the price for our sin. When we understand that and accept him by faith as our Lord and Savior, then we are in the position that 2 Peter 1:2-3 describes. Only then can we know the truth that I pointed out from [Psalm 57:1-3 Be merciful to me, O God, be merciful to me, for in you my soul takes refuge; in the shadow of your wings I will take refuge, till the storms of destruction pass by. I cry out to God Most High, to God who fulfills his purpose for me. He will send from heaven and save me; he will put to shame him who tramples on me. Selah God will send out his steadfast love and his faithfulness!](#) By running to wives, these two men were not running to God for refuge, but to marriage relationships. These relationships would continue to disappoint until they finally grasp the truth that only a relationship with God based on faith and demonstrated in obedience gives fulfillment. If you are seeking purpose and fulfillment any other place in your life, you will find the same disappointment they did in their choices. Faith in God the Son, Jesus Christ, is the only path to God.

It is why we continue to celebrate as one of only two ordinances or commands given to the church, Communion or the Lord’s Supper. This communion meal reminds us in a very real and physical way through eating and drinking of the broken body and spilled blood that Jesus suffered on our behalf. The [“one who knew no sin became sin for us.”](#) If you know Jesus Christ as your Lord and Savior and have been obedient in baptism, then I invite you to join with us in this meal today. If you have children who are not yet ready, then the best way you as a parent can teach them the significance of the Lord’s Supper is to not allow them to participate when they are not ready. After I pray, our Deacons will serve the elements from the 4 corners of the sanctuary. After everyone is served, we will eat and drink the juice and bread together. Let’s pray.